



えどがわトピックス

第1回合同部会 議事概要

日時 平成12年12月8日(金)18時～19時30分

会場 グリーンパレス「千歳」

出席者 京極委員(会長)、天笠委員、大村委員、黒瀬委員、柴崎委員、西垣委員、岡島委員、早瀬委員、馬木委員、北川委員、田中委員
事務局、野村総研

理念から始まり、議論を通じて理念に戻る。江戸川区らしいキャッチコピーを考えたい。基本理念案は表現が硬く学術的すぎる。

国民総ボランティア。各部会共通にボランティアとNPOがベースになっている。20年後を考える骨格になる。

生涯学習は福祉など他の分野と重なる。サラリーマンが会社員としてひとつの生き方に絞るのではなく、多方面に生き方を見つける時代である。

学校と家庭とかの重なり。全体を通すトーンは重なっている。まちの特性を教育に生かす。地域社会の中で学校の存在を求める。

グローバル化などはプラス面のみでなく、マイナス面に作用する面にも着目する。ITで行政の縦割りや区域の違いを克服できる。コミュニケーションにかかる時間を短縮できる、垣根を越える、というメリットがある。小さい頃の実体験、実際に触れる機会、いのちなどを知る機会を補う情報化であるが、そのメリットとデメリットを考える。

住民参加の要求は行政、住民双方にあるが、その方法論がない。「座り心地の悪い住民参加」が実感。政策評価に住民参加といっても、専門用語とか私利私欲に走らないシステムが必要。

グローバル化などは市民にすれば否応なく巻き込まれるという印象では、ゲノムも操作できないもので、市民にすれば受動的な対応を求められる。行政には、これらの意味を区民に伝えるメッセージが必要である。

ボランティアを義務化しようという教育改革はおかしい。ボランティアは本来自発的なものである。ボランティアに参加できる仕組みやプラットフォームは必要。土地利用や市街地の姿を示すことよりも、その決定プロセスが大事である。住民のまちづくりへの責任、協力を訴えることが大切である。

人口推計によると少子高齢化は江戸川区では起こらない。「65歳以上は高齢者」という考え方が課題である。

基本理念案はどの都市にもあてはまる。江戸川区らしさが欲しい。どういう追求の仕方で個性を発揮するか、不利な点をどう是正するか。現実には、海外も含めて地域同士の競争社会になっている。

生涯学習も好き放題やっている。まちをつくる前に人をつくる。世の中がおかしくなっている。とても不安。夢をもっている人もいるが、ない人は全然もっていない。

基本理念案は難しくわかりにくい。理念として大事なことは何か。山の中の楽しさは、日常から離れて生きていることの大切さに気付くこと。理念とはそういうものでありたい。まちを治めていくための住民の共通認識。その上に具体的なものを組み立てていく。ボランティアに参加できるまち。理念案の「世代・男女・国籍を問わずに」はよいが、実際には女性が少ない、中高生はいない。「生きがいと活力」もよい。

理念を考え、そのあとで産業や教育などを考える。それを考えたうえで、何と何をミックスするかを検討する。大部分の部会が異なる。環境から始っても、4つか5つの部会が一緒になる。

理念案にカタカナが多すぎる。平たく柔らかい日本語を探す。ITなど言われているが、普通の人間として、生きて死んでいくことが求められる。理念案は区民に理解しにくい。表現が煮詰まっていな

い。自助や共助は行政の造語。行政の力がなくなった象徴でもある。団欒もなく、人と人の付き合いがストレスを生んでいるのは江戸川区も他の場所も一緒。定年後の男性も子育て後の女性も疲れている。やりたいことがやれていない。男性の地域社会へのソフトランディングのために、退職者大学や飲み屋マップをやりたい。区役所の職員もリゾートホテルの従業員の気持ちが必要。オーダーが来てからやるのではなく、ライフステージに応じたイベントを用意しておく。部会ごとのすり合わせが必要などもある。

生きがいの対象が変わってきている。サラリーマンも地域に参加すれば新たな生きがいを得られる。

人口推計がこのとおりなら魅力的。「新しい公」について、これからは公そのものをつくりだす。江戸川区らしさを考えるのがこの委員会の仕事で、どう共感を呼ぶか。

理念案の3つについて、個の確立は一人一人にスポットを当て内面に着目するもの。自助・共助は人と人とのつながりをベースにするもの。地球市民は区民生活が楽しめる生活環境のことでは、このように、もっとわかりやすくすればよい。

人口推計は20年後までなので、今年生まれた人の65年後はわからない。

江戸川区は、23区内でも成長株で若々しい。川と海に囲まれ自然環境を大切にすれば良いまちになる。行政のあり方を見直し、スリム化し、変革する。下町・住宅団地・商業地のミックスであり、うまくやればインパクトがある。産業論はよいが、自然や環境を加味する。世界の動き、日本の動き、東京都の動きにも着目する。やわらかい言葉で表現する。